

2012年度 早稲田大学 人間科学部

日本史 解答例

I 原始・古代の大陸と日本列島 <やや易>

問1エ 問2イ・ウ 問3オ 問4ウ 問5ア 問6エ

問2は、大宰府に鴻臚館があったことは有名だが、都は都でも「平城京」ではなく「平安京」にあったことはやや難しかっただろうか。平安京の図をチェックしていたかどうか勝負の分かれ目だった。いっぽう問1の誤文が見つげにくかった人もいるだろう。エの「海面が陸地の奥に入り込む」という部分を読んだだけで、「海進」という用語が浮かべばいいが、そうでないと悩まされる。

II 平安～室町時代の外交・文化 <やや易>

問1エ 問2エ 問3エ 問4ア・エ 問5イ

問6イ 問7オ 問8オ 問9イ 問10オ

問7はア・イの判別が難しくて冷や汗をかくが、オの『春日権現験記』は鎌倉時代なので時期的にありえないという誤文。こういう問題を解くと、文化作品の時期分類の重要性がわかるだろう。問8は「該当するものがなければ、カ」という消去法が使えない問題で難しく感じるが、2007年の早稲田大学文学部でも出題された内容だった。いっぽう問9は難問。

III 江戸後期の政治・外交 <やや易>

問1ア・オ 問2ア・ウ 問3イ 問4エ 問5ウ

問6イ・オ 問7イ 問8エ・カ 問9ア 問10ウ・オ

史料Aは2005年の早稲田大学教育学部でも出題されていた「戊戌封事」。その時には「参州・甲州の百姓一揆」が問われていなかったが、他の大学での出題から考えると、この史料の対策として欠かせない部分だった。早稲田予備校の夏期講習「早慶難関大の日本史」のテキストでは、毎年チェックが入っている。いっぽう難問は問8。ウ・エの判別が難しい。問10はウを推測で誤文と判定する力が試された。どう推測すれば良いかがわかるだろうか。

IV 近現代の労働問題 <やや易>

問1エ・オ 問2イ 問3ア 問4ウ 問5イ・ウ

問6※ 問7イ 問8ア 問9オ 問10ア・カ

問9・10は「やや難」問題。ただし、推測の仕方によっては十分正解できる。そして問6は試験後に大学側から「受験者全員を正解とする」という発表があった。厳密にはア・ウ・エいずれも誤文である。1912年に組織された友愛会は、1919年に大日本労働総同盟友愛会に、さらに1921年10月には日本労働総同盟へと発展した。深く考えない人は、ウの「第1回メーデー」が1920年で、「日本労働総同盟」と改称される前のことだと言うだろう。しかしそれを言うなら、エの三菱・川崎造船所争議も1921年6～8月のできごとと同じく改称前である。この労働争議を何度も出題している早稲田がそれを知らないとは思えない。そして、そんなに「改称の前か後か」を気にするべきなら、アの「前身にあたる友愛会」というのもおかしい話だ。

V 海外から見た日本の姿 <やや易>

問1イ 問2イ 問3ウ 問4エ 問5エ 問6オ 問7ウ

問4は難問。ただし、ラフカディオ・ハーン(日本名・小泉八雲)は、文化構想学部で記述問題で出されていた人物。問題まで解いていなくても解答速報の答えだけ見れば、「こんな人物が問われたのか!」とチェックすることができた。著作が問われたのは厳しい。

講評

例年、正誤問題が難しく、かつ問題量も多かったが、今年は易化した。早稲田大学のなかの他学部との偏差値を考えると、来年も人間科学部ではこれくらいのレベルの問題が続くのではないかと思われる。